

Lecture 授業No.103 教科書P.160～、169

T.Q.「ウィーン体制を崩し始めた
ヨーロッパ内外の事件とは？」

向出 研司：石川県立寺井高等学校
地歴公民科教諭

直前予習 T. A. キーワード確認

教科書 P.160、169

T.Q. 「ウィーン体制を崩し始めた
ヨーロッパ内外の事件とは？」

1. オスマン帝国
2. ハイチ
3. スペイン
4. 輸出拡大
5. 相互不干渉
6. モンロー教書

クリックで全て



今日の授業ラインナップ。

1. ヨーロッパで失敗した
ウィーン体制への反抗
2. ラテンアメリカ諸国の独立
3. ギリシアの独立（独立戦争）

② ウィーン体制への反抗

T.Q.「ウィーン体制を崩し始めた、
ヨーロッパ内外の事件とは？」
教科書P.160～、169

(1) 自由主義運動 その1

→失敗 ∵まだ **エリート** 中心で民衆の支持が小さい

ドイツ: 1817、**ブルシェンシャフト** (**大学生** の組合)

※1 ルター300周年 ※2

イタリア: 1820・21、**カルボナリ** (炭焼き党) → オーストリアが
つぶす

ロシア: 1825、**デカブリスト** (十二月党) の反乱

... **貴族士官** ※3

(2) ラテンアメリカの独立 (主にスペインから)

.. { 英 (外相 カニングが支持) ... 市場化を期待

・ { 米の外交 ... ヨーロッパ諸国と米大陸は互いに干渉しない

仏 = { 1804 | **ハイチ** .. 初 cf. トゥサン=ルーベルチュールは失敗 ※4 }

から 1810's | **ベネズエラ・コロンビア・ボリビア**

~20's | ... **シモン=ボリバル** による

1/2枚目のスライドはここまで!

1810's
~20's

ベネズエラ・コロンビア・ボリビア
...シモン=ボリバルによる

ここから

T.Q.「ウィーン体制を崩し始めた、
ヨーロッパ内外の事件とは？」

ペルー・チリ・アルゼンチン
...サン=マルティンによる

教科書P.160~、169

メキシコ cf. イダルゴは失敗 ※5

ポ=
から

1822

ブラジル...本国の王子がブラジル皇帝に即位
∴平和的に独立

☆ 人種

※T. A. まとめスライドへ

クリオーリョ: 植民地生まれの白人地主 → 独立のリーダー
ex. ボリバル、マルティン、イダルゴ cf. 今も社会の上層

(3) **ギリシア独立戦争** (1821~29)...トルコから ※6

∴ 英・仏・ロシアの支援と国際世論 cf. ロマン主義

→1829、アドリアノーブル条約で独立

※7

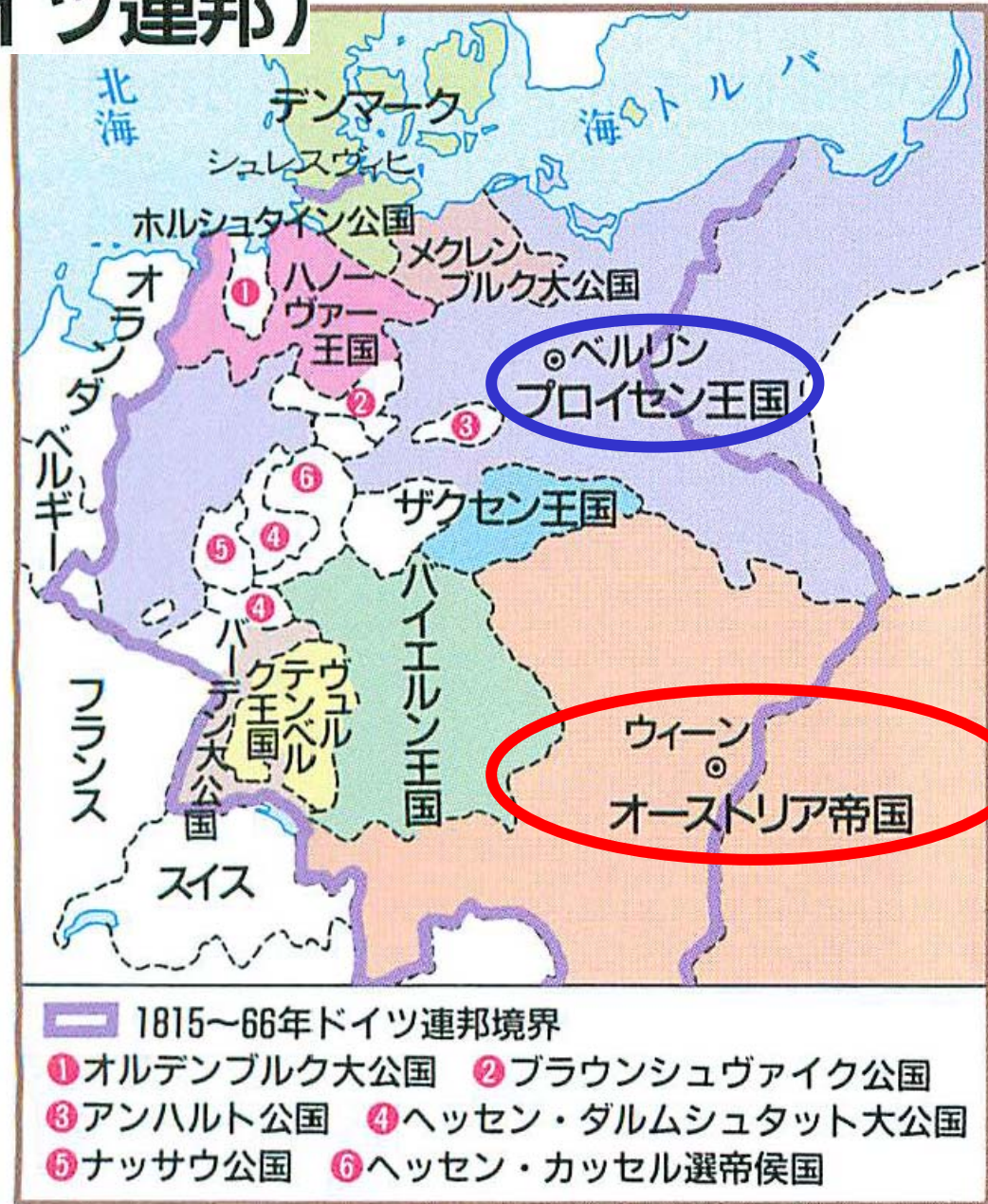
最後のスライドはここまで!

統一前のドイツ(ドイツ連邦)

※1

クリック①:
首都 **ウィーン** と **オーストリア**

クリック②:
首都 **ベルリン** と **プロイセン**



Back to 1517年 自由の旗手



←クリックで、ヴイッテンベルク教会の扉に、
「九十五か条の論題」を貼り付ける
若きルター

※3 「イギリスタイプ」の近代国家樹立を目指したが、 反動的な新しいツァーリにつぶされた！

クリックで、ロシアの
青年将校達の考え

④ デカブリストの乱

(1825年) ナポレオン戦争
に従軍し、西欧において自
由主義の息吹いぶきに接したロシア
の青年将校たちは、12月、
新皇帝ニコライ1世の即位
日に立憲君主政の樹立をめ
ざして蜂起ほうきしたが、ただちに鎮
圧された。(P.163写)

元老院広場(ペテルブルク)



ピョートル
1世の像

フランス革命を機に起こったサン＝ドマング(ハイチ)の砂糖プランテーションの黒人奴隷蜂起を指導。ナポレオン軍と戦い、自らは捕らえられて獄死した(1803)が、中南米初の独立と世界初の黒人共和国成立の立役者となった。

※4

“黒いジャコバン”
1743～1803

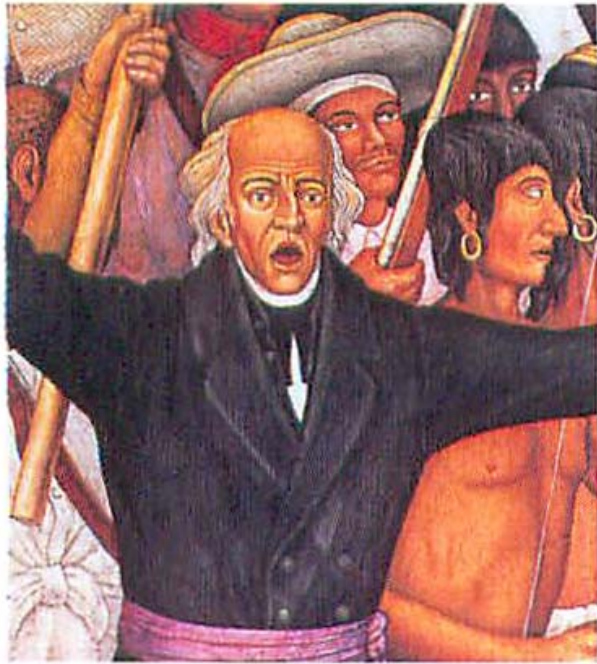
トゥサン＝ルヴェルチュール

ハイチ革命

- 1789 仏、人権宣言採択
- 91 黒人奴隷の蜂起
- 94 国民公会(仏)の黒人奴隷廃止決議
- 1801 ハイチ憲法制定
- 03 ナポレオン軍降伏
- 04 独立達成

クリックで、
赤・白・青の
トリコロールカラーの
軍服に身を包んだ
トゥサン





↑ **イダルゴ**(1753~1811)
 メキシコ独立運動の指導者。
 ドローレス村の司祭で1810年「ドローレスの叫び」をあげ独立戦争を開始した。

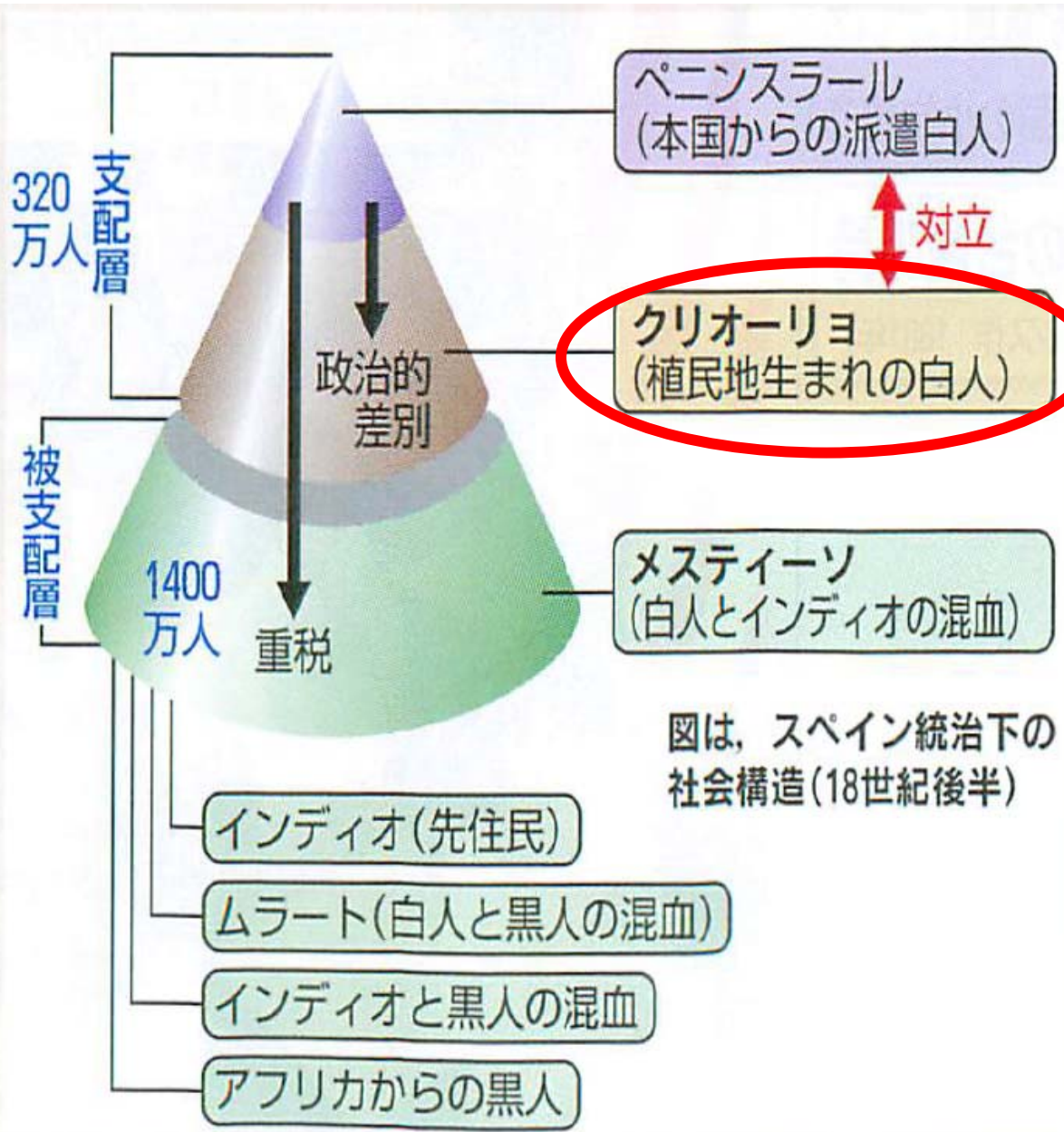
クリックで、メキシコ独立の指導者イダルゴとメキシコ



※6①NEXT



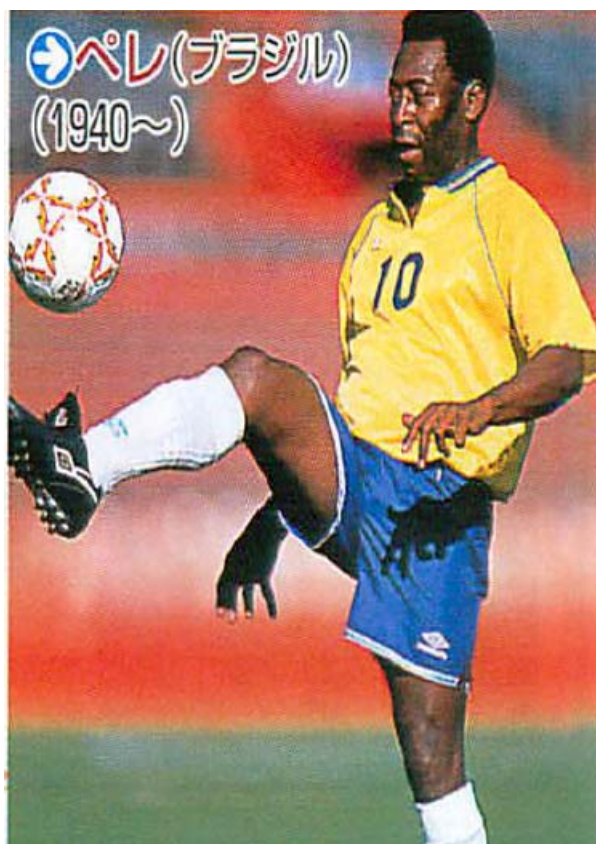
サン=マルティン
(1778~1850) アルゼンチン出身のクリオーリョ。アルゼンチンの独立戦争を指導し、チリの艦隊を創設してペルーに侵入し、スペインを降伏させてリマ市で独立を宣言した。



クリックで、サン=マルティンとクリオーリョ

南米でサッカーが強い理由 — 社会構造から考える —

南米の国々の多くは貧富の格差が大きく、多人種・複合民族国家であることがサッカー人気と深く関係しているようである。用具にあまり費用がかからない、プロ選手として成功すれば富と名声が得られる、そして国家と国民の統合の象徴として政府も積極的に奨励していることが理由である。



← クリック①:理由その1 → ②:理由その2

ジージョ
(1953~)
(ブラジル)



マラドーナ
(1960~)
(アルゼンチン)



※6②
BACK

ロマン主義

19世紀前半に現れたロマン主義は、人間の個性や感情を重視したことから、当時ヨーロッパ各地で起こっていたナショナリズム(国民主義)の動きと結合し、多くの文化人が活躍した。



※7



クリック①:
「キオス島の
虐殺」と
トルコ兵

クリック②:
バイロン

バイロン(1788~1824) ドラクロワ
らと共にギリシア独立戦争を支援した
イギリスの詩人。私財を
投げ^{ぎゆう}義勇軍を^{ひき}率いて参戦
したが、熱病に倒れた。

Lecture 授業No.103

T.Q.「ウィーン体制を崩し始めた、ヨーロッパ内外の事件とは？」

ヨーロッパ外ではラテンアメリカ植民地の独立運動が起こった。植民地生まれの白人(クリオーリョ)であるサン＝マルティンがアルゼンチンなどを、シモン＝ボリバルがボリビアなどをリーダーとして独立させた。内ではギリシア独立戦争が起こり、英・仏・ロシアの支援を得て成功。ロマン主義アーティストのドラクロワ(仏。画家)やバイロン(英。作家)が国際世論をトルコからの独立支持に向けた。